



暗唱聖句

夜の幻をなお見ていると、／見よ、「人の子」のような者が天の雲に乗り／「日の老いたる者」の前に来て、そのもとに進み

どの時点での
出来事？

権威、威光、王権を受けた。諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え／彼の支配はとこしえに続き／その統治は滅びることがない。（ダニエル7：14、新共同訳）

彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない。（ダニエル7：14、口語訳）

2025.04.26 はい

聖所→至聖所

再臨

ヨハネの黙示録 10:7a
第七の天使がラッパを吹くとき(1844.10.22)、
神の秘められた計画が成就する。 **ヘブライ 8:1**

2300 のタと朝の
終わりの時

1798 年 ※1 **1844** **真夜中の叫び** (マタイ 25:6): 夏～秋の再臨運動～10 月 22 日(タイ)
預言的期間の終了

調査審判におけるキリスト:審判(裁判)官+仲介(仲保)者+擁護者

調査審判(再臨前審判)→1844 年に調査審判
→対象(被告):キリスト
→ダニエル書 7:22 いと高き者の聖徒のために→①死んだ義人のた

1830 年 **再臨運動**
終わりの時(1798 年～再臨)

←大終結の
前夜→ **第一(1830～44 年)、第二(1844 年夏～秋)** 第三天使の
(1844 年秋以降)(黙示録 14:6～13) 三天使の使命を担

教皇至上権の終焉(一八六〇年間の終わりの時)

真夜中の叫び



ダニエル書と黙示録の重要な問題の一つは、この世の統治、つまり神の正当な所有物である地球を支配しようとする人間の一連の試みと、この罪と反逆の恐ろしい物語が永遠に終わりを告げたなら、最終的にどなたが義において統治されるのかということです。

その瞬間に至るまで、何千年にもわたる人類の自己統治の試みが続いています。その試みは、うまくいったためしがありません。崇高な理想を掲げた者たちでさえ、常に挫折し、多くの場合その理想には遠く及びませんでした。何千年にもわたる人類の悲しい歴史の多くは、このような失敗した支配体制がもたらした悲劇の記録にほかなりません。そして、神の「永遠の国」（ダニ7：27、口語訳）が最終的に樹立されるまで、状況は悪化の一途をたどることでしょう。

ダニエル書7：27 天下の全王国の王権、権威、支配の力は／いと高き方の聖なる民に与えられ／その国はとこしえに続き／支配者はすべて、彼らに仕え、彼らに従う。」

現在、実際に進行中の主な戦争・紛争

1. スーダン内戦(2023年～)
2. ウクライナ戦争(2014年～、特に2022年以降)
3. イエメン内戦(2015年～)
4. アフガニスタン紛争(1978年～)
5. ミャンマー内戦(2021年～)
6. シリア内戦(2011年～)
7. パレスチナ・イスラエル紛争(1948年～)
8. 2024年時点で、世界では59件以上の武力紛争が発生しており、冷戦終結以降で最も多くの犠牲者を出しています。
特にアジアで17件、中東で9件の紛争が記録されています。

神がアブラムを召し出した理由

➡ ヘブライ人への手紙11:10

アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです。

- ✓ 神の選び - アブラムを通して、信仰の民を形成するため。
- ✓ 祝福の約束 - 彼を通じて全世界が祝福される(最終的にイエス・キリストにつながる)。
- ✓ 信仰の試み - 彼を信仰の父とするため。
- ✓ 偶像崇拝からの分離 - 真の神を礼拝する民を作るため。
- ✓ 約束の地の準備 - イスラエルの地を示すため。

アブラム(アブラハム)の召命は、重要な神の計画の始まりでした。

申命記 4:5-9 のメッセージ

- ✓ アブラハムとの約束が成就し、イスラエルは大いなる国民となった。
- ✓ イスラエルは律法を守り、他の国々に神の知恵と義を示す使命を持つ。
- ✓ イスラエルは神との特別な関係を持ち、神が近くにおられる祝福を受ける。
- ✓ 律法を守ることによって、神の祝福が続く。
- ✓ 信仰と律法を次世代に継承することが重要である。

この箇所は、アブラハムへの神の約束(創世記 12:1-3)の成就としてのイスラエルの使命を強調しています。

神の戒めを守ることで、地上のすべてに祝福が及ぶことになります。

1. イスラエルの初期は、神(真の王)が直接支配する体制でした。民は律法に従い、士師と呼ばれる指導者が神の指示を受けて裁きを行っていました(士師記 2:16~19)。しかし、イスラエルの民は、他の国々と同じように、人間の王を持ちたいと願うようになりました(サムエル記上 8:4-5)。

①士師は神によって立てられたが、世襲制でもなく、一貫した統治体制がなく、人間の目には不安定だった。

②サムエルの息子たちが不正(賄賂)を行っていたため、新・指導体制を求めた(サムエル記上 8:3)。

③他の国々には王がいた(サムエル記上 8:20)。

2. 神はサムエルに、「彼らが退けたのはあなたではない。彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ。」(サムエル記上 8:7)と語り、サウルを最初の王とした(サムエル記上 9~10 章)。ただし、神は王を持つことについて警告した(サムエル記上 8:11-18→王が税を取り、労役を課し、権力を振るうという警告は、イスラエルの歴史となった)。

結論

イスラエルが人間の王を持つことになったのは、民が神よりも、人間の指導者に頼ろうとしたためです。これは「神を信頼するか、人間の制度を信頼するか」という選択で、結局、イスラエルは神の支配ではなく、自分たちの願いを優先し、王を求めた。私たちも、神を信頼する代わりに人間的な力や制度に頼ろうとすることがありますが、神の計画に従うことが最善であるという真理は変わりません。

イエスは神のご品性を 行動で示された

イスラエルという国を樹立した究極の目的は、神が教会を設立された目的と同じでした。神は、ご自分の民を用いて、罪人をキリストに引き寄せたいと望んでおられます。教会を通して伝えられる三天使のメッセージの呼びかけは、選ばれた少数の人ではなく、「あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族」(黙14:6)に向かって届けられます。黙示録18:1は、キリストの再臨の前に全地が神の栄光によって輝くと預言しています。

出エジプト記34:6、7

主は彼(モーセ)の前を通り過ぎて宣言された。「主、主、**憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者。**」

民数記23:19

神は人ではないから、**偽ることはない。人の子ではないから、悔いることはない。言われたことを、なされないことがあるか。告げられたことを、成就されないことがあるか。**

詩編11:7

主は**正しくいまし、恵みの業を愛し／御顔を心のまっすぐな人に向けてくださる。**

イザヤ書6:3

彼らは互いに呼び交わし、唱えた。「**聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う。**」

ヨハネの手紙一4:8

愛することのない者は神を知りません。**神は愛だからです。**

詩編51:12(詩篇51:10)

神のa right spirit

「神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。」

この聖句は、罪を真に悔い改める者の心からの祈りと願いを記しています。特にこの詩編51編は、ダビデが自らの最悪の罪(バト・シェバ&ウリヤ事件)を犯した後に、正気を取り戻すや否や、深い悲しみと罪悪感を抱き、どん底の状態で、神に悔い改めて祈った、過ちの告白の詩とされています。

「清い心」は、神に対して真摯な偽りのない、罪から離れた心を意味します。ダビデは更に「創造してください」と祈っています。ただの修復ではなく、「新たに作り直されること」が必要だという深い反省があります。また「創造」は、創世記の天地創造に使われた言葉(ヘブライ語のバーラー)と同じで、ダビデは、神にしかできない全く新しい始まりを懇願し、祈り求めています。

初めに、神は天地を創造された(創世記1:1)。

元始(はじめ)に神天地を創造(つくり)たまへり(文語訳[明治訳]舊約聖書 1953 年版)

← 読み方(右から左へ)

ハアレツ ヴェエット ハーシャマイム エト エロヒーム(神) バーラー ベレシート(初めに)

בְּרֵאשִׁית בָּרָא אֱלֹהִים אֶת הַשָּׁמַיִם וְאֶת הָאָרֶץ

神の息、命

つち(土)

しんによろ(之繞)

→動きを表す

くち(口)

造

造語義 ①つくる ②はじめる、はじめる

ダビデは、自分の内なる人(心や霊)が神の御前で再び立ち上がることができるよう、「神様、私の心をあなたのように清らかに造り直してください。揺らぐことのない信仰と正しさを私の中に新しく宿してください」と神の救いを願っています。